

学校探検

1

教室が星空に

高橋小学校(但東)

案内者 田中 慎君



高橋小学校は、国道426号沿いの京都府との県境に位置した農山村地域の但東町久畑にあり、全校児童数は50人で、そのうち約半数はバスで通学しています。

この学校に通う、野球部・但東ビーバーズの主将で、ポジションはキャッチャー・5番バッターの田中慎君(6年生)に、高橋小学校のいい所や、おもしろい所を紹介してもらいます。



高橋小学校の全景

「将来はプロ野球選手になりたい」と夢を持つ田中君は、8月末に開催される小学生最後の北但馬野球大会に出場予定で、夏休み中は週5日練習し、真っ黒に日焼けしていました。

僕の学校を紹介します。僕の学校の周りは、自然に囲まれていて、山や川など遊ぶ所が多く、特に川がきれいで、オオサンショウウオがいます。

学校で楽しい行事は、春に児童みんなで田植えをした餅米を使い、PTAの方と協力して、秋にみんなで収穫祭をすることです。収穫祭では餅つきをして試食会をします。また、その餅を、地域の高齢者の一人住まいの方にお裾分けしています。

学校の中でおもしろい所は、理科室にあるプラネタリウムです。理科室の天井には、直径約4メートルほどの半球

状のテントのようなものが格納してあり、スイッチ一つで下りてきます。そして、ドームとなった中に児童が入り、理科室を暗くして、星の光を作る機械でいろいろな星座を映し出します。教室は星空に変わります。主に4年生の星の学習で使います。

また、学校の裏には山があり、冬に雪が積もると山の斜面でスキーができます。児童のみんなには、それぞれに専用のスキー板とスキー靴が貸し出され、スキーが楽しめる自然豊かな学校です。



天井から下りてきてドームになり児童はここで星の学習をします

高橋小学校は、学習だけでなく、地域との交流や自然を活かした遊びなどを採り入れ、児童たちがのびのびと生活できるような環境づくりが行われています。

笑顔の輪

古裂ちりめん細工「布恋人」代表 松本 愛子さん

古裂ちりめん細工をされているグループ、「布恋人」を紹介いたします。布恋人の代表は出石町水上の松本愛子さんで、現在9人のメンバーに毎月1回ちりめん細工の作品指導されています。

ちりめん細工とは、江戸時代から歴史をもつ伝統手芸で、細工に使用するちりめんは、緯糸に「燃り」といわれる癖をかけながら、織り込んでいきます。この生地を精錬することによって、糸が収縮して燃りが戻り、生地全面に細かい凹凸状の「しぼ」といわれるものが生まれ、これがちりめんの特徴です。

布恋人は、昭和初期以前に作られたちりめん素材の着物や布の古裂を使います。生地が柔らかく独特の風合いがあるので、これらの着物や布を集めて解き、ちりめん細工を作ります。完成作品の、可愛らしい動物たちや、手の平に乗る小さな花は、見ていると心が癒されます。

松本さんが、ちりめん細工を始めたのは、13年前。ちり

めん細工講座を受講したので、きつかけに、講師資格を取得してからです。人から批判を受けることが勉強になる」と、メンバー全員が作品を持ち寄り開催した作品展は好評で、大阪や姫路からも作品を見に来られたそうです。また、松本さんは、出石町小坂小学校の児童を対象に、手芸クラブで講師もされています。松本さんは、「現在はまだ作られていない素材なので、私にとって古裂は宝物。次の展示会では、どのような演出にしようか考えると夢が膨らむ」と満面の笑み。グループ名のとおりメンバー皆さん、布に恋をされています。



布恋人メンバーの皆さん